

○斎藤祥子* 北村トモエ** 高野美栄*³ 鈴木良子*⁴ 成田巳代子*⁵ 田岡洋子*⁶
 今井弥生*³ (*北海道教育大函館校 **大阪女学園短大 *³東京家政学院短大
 *⁴仙台白百合短大 *⁵滋賀女短大 *⁶京都短大)

目的 長寿化に伴い豊かで快適な人生を送るために、高齢者の生活の充実は重要な課題である。2報では身近な服装色の配色嗜好が気候、風土、習慣の異なる生活環境でどのように影響するか、高齢化した地域の現状分析と地域的特性を検討する。更に全国的な配色から安全性、感性面をチェックし、老年期の人たちに配慮した配色嗜好の資料を提供することを目的とした。

方法 対象、調査時期、手続き、分析は1報と同様。地域別、都道府県コードに準じ、1群 472名(北海道01, 青森02, 宮城04, 山形06)、2群 730名(埼玉11, 千葉12, 神奈川14, 新潟15, 山梨19)、3群 563名(東京13)、4群 239名(岐阜21, 京都26, 大阪27)、全国的フェイス・シート性別(男647、女1357)、老年前・後期(65~74歳1315、75歳以上689)、職業(有325、無1679)、未既婚(未81、既1923)、世帯(1人434、夫婦354、他と同居1020)、住居形態(一戸建1623、集合376)。

結果 地域別配色嗜好の1位は1~4群ともにN9.3とN1.2で無彩色、明度差大の組合せ。2位は1群10.0B2.0/2.0と5.2PB2.5/9.1, 2群N7.5とN5.4, 3群10.0B2.0/2.0とN9.3, 4群3Y2.6/3.2と10YR7.1/1.5である。地域間の相関は2群と3群0.76, 1群と4群0.71, 他は0.69である。色相とトーンの分布から1群はくすんだ灰、2群白、3群暗い青、4群は暗い黄赤等で、2群関東は無彩色との組合せが多い。3群の東京は配色嗜好において色数が多く、感性面で豊かさが推察された。